



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 23 年 6 月 27 日(月)
木高研の木材基礎講座 編

3 月 11 日の大震災から 3 カ月が経ち、この教訓をもとに様々な形で検証や対策が行われています。佐々木・渡辺両先生が勤務される秋田県立大学木材高度加工研究所でも「平成 23 年度木材基礎講座」で東日本大震災をテーマに 5 回の講座を開催して下さいました。講座の最終会に渡辺千明先生が講師をされるということで、すみれ会メンバー 2 人で勉強に行ってきました。

先生のテーマは「危機管理とボランティア～私たちにできること～」。受講者は 40 名、建築関係者、行政職員、一般の方々の幅広い立場からの参加でした。先生は長年の研究をもとに①全て想定外と言いきれるか(津波でんでんこの実践、津波の火災、集落の孤立、古い庁舎、通信不能) ②災害と暮らし(社会変化、地域社会の潜在的脆弱性) ③防災制度の変換(阪神淡路大震災から始まったボランティア活動、クラッシュシンドローム、高齢者の孤独死、新潟地震から分かってきたエコノミークラス症候群、中山間地孤立、生活不活発病) ④防災基本計画(地域防災計画、平成 20 年 2 月修正された男女双方の視点配慮、自助・共助・公助あらゆる主体の連携、緊急地震速報) ⑤男女共同参画基本計画⑥東日本大震災の復興への提言として「減災」「特区」の推進など様々な視点からの防災を学びました。

上町自主防災も 7 年が経過し、この度の震災で「組織を作っておいて良かった！」としみじみ思いましたが、まだまだ納得できるものではなく、例えば、夜間の被災時、日中の留守家庭の対応などは今後の課題です。

また、渡辺先生は秋田県北部市民活動サポートセンターの広報誌「んだすな」で「震災を考える できることから始めよう」を毎月連載をされており、のしろ白神ネットワークが福島県会津若松を支援した嫁見まつりでの会津若物産フェアや上町自主防災も紹介して下さいています。まずは、コミュニティー溢れるまちづくりを目指すことが、減災にも防災にも繋がることなのだというのを改めて再確認した次第です。

渡辺先生は大震災後に「災害ボランティア活動支援ネットワークあきた」を立ち上げ、県内学生と連携した被災地支援などもされています。支援は一時的なものではなく、継続的に、そして、イベント等多様な形で普段の暮らしの中での参加、自分も楽しめることが好ましいとお話下さいました。

最後のお話に、支援上手は受援上手、「自分ならこういう支援が欲しい」という想いを伝える「受援力を高める」この新しい言葉の実践も地域の繋がりにしにはできないことを再確認。この受講で災害に対する危機感と実践強化と普及の急務を実感した 1 時間でした。生きていること、それだけで有難い気がする毎日です……合掌

文： 能登 祐子



平日の 18 時からにもかかわらず、多様な参加者がありました。